



ゴミ処理も、市民のご協力をお願いしなければならないことが多い。清掃指導員は、処理がスムーズにいくよう、処理車の行く前に指導やらわお願いをして歩く。

ゴミ処理専用車のロードバッカは、小型で衛生的な機能をフルに生かして、市内住宅街のゴミを処理していく。

フタを開けるとブーンと悪臭が鼻をつく。大きなゴミ箱に入らなければならぬこともある。

はなやかな舞台のかげに裏方と呼ばれる人々があるように、都会の生活には、清掃事業という影の力があります。とくに留萌市の場合は札幌市よりも多く、全道各市に比べても、上位の方にあるというだけに、この清掃事業にも大きな悩みがあります。いま、留萌市内で発生するゴミの量は、市街地を中心とする清掃地区だけでも一日約六十トン以上にものぼるとみられていますが、冬期の積雪、それに人手不足などで、思うようには進まないとはいえ、一日約五十トンほど処理をしています。それでも、市民のみなさまからのクレームを早く処理して、その苦情に対しても、積雪による処理能力の低下、人手不足による処理能力の限界などで十分にご要望にこたえられないのが現状です。現在、自動車四台、馬車四台が、それぞれゴミとアグの処理にわたり、二十一名の作業員とともに、次のような処理をしています。△毎日「駅前」→「神社下」→「十字街」→「大町」の大通り、十字街→留萌支庁の道路ぞいの地区

寒い冬空に1日50tのゴミ処理

でも追いつかぬゴミの多いまち・留萌



△三日に一度「十字街」→「明元町」伊藤船具店までの道路ぞいの地区

△一週間に一度以上の地区を除いた市街地

△十日に一度「大町」、「沖見町」、「見晴町」

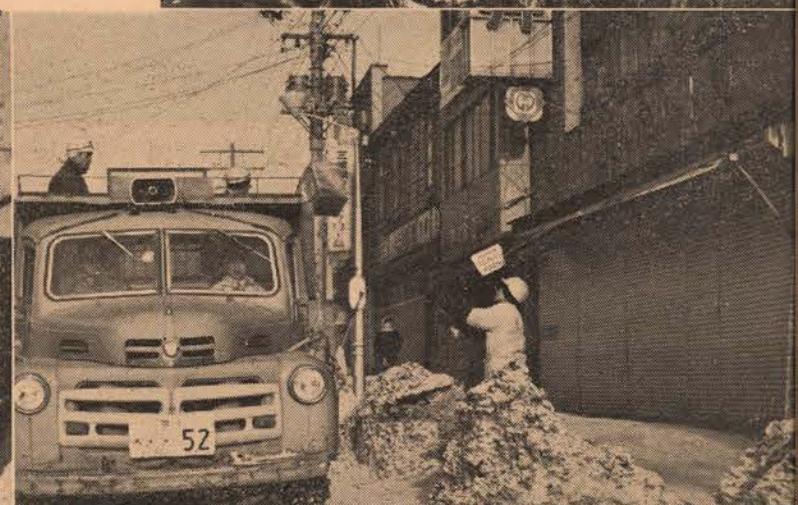
△一ヶ月に一度「元町」の一部、「春日町」団地、「南町」

このように計画をたて、三月まで行われますが、少ない財政の中から清掃事業のみに多額の予算をさいて自動車を十分必要なだけ購入することも出来ない現状です。もしかりに、自動車を必要なだけ購入したとしても、ゴミは出せ出せ!となつては、また同じような姿になることは明らかです。しかし、市の清掃事業はいまの持つての力を十分に發揮して、少しでも多くのゴミを処理したいと、努力しているだけは、ご理解していただきたく思います。

約五十トンものゴミといいますが、悪臭鼻をつくゴミ、もうもうと立つホコリにつゝまれてのアグを、一日五十トンも埋するということは、みなさまのご家でひと冬に準備する石炭と比べたら、どの位多いものかご想像がつこうかと思ひます。

冬寒い朝八時から作業をはじめ、手かじかむのがまんして、ときには、大きなゴミ箱の中に入つてゴミを集め、車の上ではゴミに埋まりながらの仕事は

とかく社会生活中で忘れられがちなこととはいえ、その役割の大きさははかり知れないものがあります。札幌市のように重量によつて清掃料金を徴収している所では、処理するゴミの量が少なくなつたといふます。このように、わたくしたちの生活でもまだ自己処理できるゴミが多くあります。自己処理できないものだけ出すようにすれば、処理能率があがり、広い地域の処理が十分できるようになります。



冬のアグ処理も大変な仕事です。ホコリを体いっぱいに浴びて車に積む。灰捨て箱の外に捨てる灰は雪と一緒にかたまって、それを割るツルハシ持つ手も朝の寒さにつかむ。

人かけまばらな市内大通り商店街、まだよろい戸を降した商店もある。そうした中を、凍りつく朝の寒風をついて、さうも欠かさずゴミ処理車は街へ出て行く。

